

の影響を受けるウワ物に関しては実質の2~3円下げということになるかもしれない。しかしスソ物は

横ばいになるのでは」と話した。

関東2次合金の2月前半アルミ・スクラップ価格 上、すそともに値下げの意向、缶は5円上げの動き

関東の2次合金メーカー各社は、2月前半のアルミ・スクラップ購入価格について、上物でキロ当たり5~7円の値下を、すそ物については3円前後の値下げをとの意向を納入問屋筋に伝えている。指標のLMEアルミ新地金相場が、1月末以降、急落が続いていることが背景にある。

1月27日入電のLMEアルミセツルメントは2,189.5ドル、2月3日入電のそれは2,075ドルと、約1週間で110ドルも下落している。足もとの為替相場で換算すると約10円の下落となる。ルール通りいけば、アルミ新地金の代替原料という側面が強い上物は地金の下げ幅とおなじ10円前後の下げ、すそ物は3~5円前後の下げとなるのだが、いまアルミ・スクラップはひっ迫しており、売り手(納入問屋筋)に有利な状況となっている。このため、買い手(2次合金メーカー各社)は、ルール通りの引き下げは難しいと考えるところが少なくないようだ。

複数の納入問屋筋からも、タイトなので値下げは受け入れたくないが、指標相場がここまで下がっているのは、上物は5~7円、すそ物3円前後、それぞれ値下げするのはやむをえないとの

声が聞かれる。ただ強気の間屋からは上物は5円の値下げ、すそ物は据え置き、さらに強気のところは上物、すそ物ともに据え置きとの声が出ています。そして一部では、上物とすそ物ともに価格を据え置いた2次合金メーカーがでてきている。

アルミ缶については、UBCメーカーが需要シーズンに入ったこともあり、新菱が5円値上げを打ち出している。

1月後半・2次合金メーカー買値実勢値 (置場・現金・キロ当たり円)

関東地区

2S=155~165円、63S=153~164円、アルミホイール(1P)=150~162円、ビス付サッシ=129~136円、缶プレス(ソフト)=109~129円

関西地区

2S=155~165円、63S=153~163円、印刷板=160~170円、機械鋳物=125~133円、ダライ粉=108~118円、ビス付サッシ=124~133円、缶プレス=120円~130円

ステン
レス

ニッケル系ステンくず18-8新切れ価格据え置き 輸出業者15万5,000円、直納問屋筋15万2,000円

ニッケル系ステンレス・スクラップは、指標のLMEニッケル相場が1万8,000ドル台を堅持しており、輸出業者の高値買いも継続されていることから、非鉄スクラップ価格が軒並み下落するなか、高止まりしている。国内ステンレスメーカーのニッケル系ステンレス・スクラップの買値は代表品種18-8新切れでトン当たり15万5,000~16万円。直納問屋筋の18-8新切れ市中買値は15万2,000円前後が中心値となっている。輸出業者は18-8新切れを15万5,000円~16万円で集め

ており、国内ステンレスメーカーとの値差はほとんどない。中国向けは時期的要因により引き合いは落ちているものの、韓国向けは鉄鋼需要の堅調を背景に底堅く推移しているため、輸出業者の集荷意欲も非常に高いとスクラップ問屋筋は話す。別のスクラップ問屋筋は、急激な為替変動がなければ、LMEニッケル相場が1万8,000ドル台を維持する限り、18-8新切れは、いまの価格が維持されるだろうとの見方を示す。



1月の銅・銅合金スクラップ月刊レポートと2月の見通し 橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

トヨタショックとBRICSの金融政策次第

概況:前半、12月の中国のGDP上方修正や自動車生産台数世界一達成を好感するも景気回

復に伴う出口戦略からの中国銀行預金準備率引き上げからコモディティ全般弱含みとなった。後半は中国の豪雪による電力の供給懸念や10-12月GDPが10.7%増と6四半期ぶりの2ケタ成

